

憧れの世界近づく縁に

尾畑 留美子さん

尾畑酒造専務

子供のころ、テレビ番組「兼高かおる世界の旅」を夢中で見ていました。島に育つ人間は、海の向こうに強い憧れを抱くものです。行くことがかなわない土地のことを隅々まで教えてくれたのがこの番組でした。

兼高さんは30年に及ぶ番組で約150カ国を訪れたそうです。そんな姿に憧れ、小学校の文集では「世界を紹介するジャーナリストになりたい」と書きました。

番組が終わって20年を経て、兼高さんがご自身の旅を振り返ったのがこの本です。撮影の裏話だけでなく、おてんばだったエピソードなども紹介されています。編集のことを考え、同じ国は同じ服で過ごし、ホテルで毎夜洗っていたそうです。美しい人なのに、身を包むことに執着がないことに驚きました。



わたくしが旅から学んだこと

兼高 かおる著

私はジャーナリストにはなりませんでしたが、映画配給会社に入り、映画を通して世界を紹介する仕事に就きました。その後は故郷の蔵元を継ぎ、日本酒を世界に紹介しています。今、「真野鶴」などは15カ国と取引があります。そういう意味では憧れの人に、ちよっとだけ近づけているかもしれません。

海に隔てられ、世界は遠いと感じていた私ですが、今は佐渡にいるからこそ、世界とつながる仕事ができると思っています。

十数年前、私が不在の時に兼高さんが蔵の見学においてになったそうです。「縁があればまた機会はある」と思っていました。その後あるパーティーでお会いでき、短時間ですが、どれだけ憧れてきたか、お話しすることができました。今年、計報をお聞きした時は本当に残念でした。

今は商用で年3回程度、海外に行きます。兼高さんから学んだのは、好奇心と体験主義。「旅」をすると物事に対して違うアプローチができるようになります。いくつになっても成長できるのは幸せなこと。いずれおばあちゃんになったら、以前訪れた場所を再訪したいです。

(論説編集委員・石塚恵子)

にいがた人

の本棚

「兼高さんは日本に世界を紹介すると同時に、世界に日本を紹介してくれていた」と語る尾畑留美子さん＝佐渡市

おばた・るみこ 1965年佐渡市生まれ。慶応大法学部卒。日本ヘラルド映画の宣伝プロデューサーを経て、95年にUターン、生家の蔵元を継ぐ。